

希望新聞



ここでも妻とともに

福島

津波で堤防が決壊し妻も子(58)さんが行方不明になった相馬市磯部の無職、細沼隆さん(61)「留守中に起きた震災で妻が行方不明になり、毎日捜索を続けている。私は元長距離運転手。定年後のこれから2人でどこへ行こうか、何をしようかと楽しみにし

がれきの山になった集落で妻を捜す細沼隆さん

津波で自宅が流された平野ハルさん



大植町中央公民館に避難した同町の平野ハルさん(78)「5人の子どもの家族がいつでも来られるよう建て直した自宅が、基礎だけを残して津

岩手

波で流されました。正月に孫の顔を見るのが何より楽しみだったので、残念でなりません。避難所で散歩を心がけていますが、膝が良くないので、押し車があると助かります」

声 被災地から

ていた。最後まで一緒にいてやれず申し訳ない。みんなもうここには住めないと言ってるが、私はここで妻とともに生きたい。もう失うものなんてないんだから」

宮城

南三陸町の町立志津川中学校で、山梨県流通センター青年部の仲間とほつとりの炊き出しボランティアをした井上雅博さん(46)「以前、仙台市若林区で炊き出しをした時も実にひどい状況でしたが、こちらは町全体が無くなっており驚きました。被災者のみなさんは同じ境遇だから、周囲に対し、不満を言えなくなっています。だからでしょうか、僕らに話しかけてくる人が多い。誰かに、話を聞いてほしいのかなという印象を、受けました」



南三陸町の避難所で仲間と炊き出しをした井上雅博さん(中央)